

1971年8月7日 第3種郵便物認可(毎月1・6の日発行)

2024年8月31日発行 SSKA 頸損 増刊通巻11358号

SSKA



KEISON No. 143

目 次

特集 全国総会・愛媛大会報告	1
第 51 回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会	1
2024 年度全国総会報告	3
全国総会運営に携わって	11
公開講演Ⅱ報告	12
愛媛大会参加報告	13
事務局からのお知らせ & 全国頸損連絡会 & 関係団体 “年間予定”	16
新幹線の車いす席や障害者割引乗車券のネット予約について	17
ひとり暮らしをはじめて	18
日本リハビリテーション工学協会関西支部セミナー	20
NPO 法人ケアリフォームシステム研究会 第 21 回全国大会 in 兵庫	21
麻痺部を含めた全身トレーニングの紹介	22
第 12 回「To be yourself」一人暮らし 4 参加報告	24
記事紹介「女性の性暴力被害報告会」	25
自動車事故による重度脊髄損傷者のリハビリ機会の確保	26
お役立ち！？	28
報道・情報ピックアップ	29
支部ニュース	30
全国頸髄損傷者連絡会連絡先	31
編集部のページ	32

第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会

愛媛頸髄損傷者連絡会 会長 井谷 重人

今回の愛媛大会ですが、一度は愛媛で開催することが決まっていましたがコロナで延期になり、2年越しにようやく実現できました！

今回は全国脊髄損傷者連合会との合同開催になりました。両団体から会員が集い、倍の参加者によって盛大に行われました。

四国に初めて来られたという人も多かったので、愛媛を楽しんでいただきたかったのですが、あいにく天候に恵まれず、ホテルと会場の往復だけだった人もいて、とても残念でした。しかし会場は久しぶりに再会を果たした仲間達で活気に溢れました。



(合同セレモニーの様子)

今大会は、まず全脊連が例年行なっている式典に同席する形で始まりました。



(頸損会鴨治会長挨拶)

ご来賓の方々も沢山ご来場いただきました。愛媛県出身の、厚生労働大臣政務官・塩崎先生、前厚生

労働大臣副大臣の山本先生が駆けつけてくださったのは嬉しかったです。その他、木村先生、榎屋先生も。

式典の後は、厚生労働省障害福祉課長伊藤様より令和6年の報酬改定についてご講演をいただきました。



(厚生労働省障害福祉課長伊藤洋平様がご登壇)

1日目は、その後記念撮影になりましたが、頸損・脊損合同という事もあり、凄く厚みのある記念撮影になりました。



(全員の集合写真)

初日の最後は、参加者お楽しみの懇親会でした。実行委員会として反省すべきところではありますが、他の準備に追われ、飲み物の種類が少なくなってしまい、会場でお酒や飲み物が足りなかつたという方がいらっしゃったのではないかでしょうか。当初、バー・カウンターなど予定したのですが、準備が間に合わず…残念です。しかし、サプライズゲストによりその辺の不手際が感じられないくらい盛り上がることができました。シンガーソングライターの松本隆

博さんが魂のこもったライブを行ってくださいり、1日目は感動のなかで終了しました。

松本兄さん、僕たちを救ってくれてありがとうございました涙



(松本隆博さんライブ中)



(井谷と松本さんのツーショット)

あいにくの雨で夜の松山を楽しんでもらうことができなかったのがとても残念でした。果敢にも繁華街に繰り出した方達は、「実は松山の繁華街って栄えてるじゃん」と思われたのではないか?

2日目は、総会デー。午前中は頸損会の総会が行われ、シンポジウムを挟んで、全脊連の総会が行われました。

総会は、皆様のご協力のもと、滞りなく承認され、来年度に向けて歩き出すことができました。



お昼のシンポジウムでは、全脊連事務局長の安藤さん、大阪の自立生活センターリアライズ会長で私の親友の三井さん、京都頸損の山中さんが登壇され就労支援特別事業、職場介助助成金・通勤援助助成金についてお話しされました。



(自立生活センターリアライズ会長の三井さんと)

こうやって久しぶりに振り返ってみると、一つ一つ色んなことがあったなあと思い返されます。日頃一緒に活動している人達が、色々な役割を担って大きなものをつくっていくのは、絆も深まりとてもいい経験になりました。学生のボランティアも沢山参加してくれました。色々な人たちに支えられて、開催できたと思います。



今回ハイブリッド開催ということで、配信係を全脊連京都府支部の山本さんが担ってくれました。本当に疲れ様でした。

この大会に携わってくれた全ての方に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

2024年度 第51回全国頸髄損傷者連絡会全国総会 報告

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

全国頸髄損傷者連絡会・2024年度全国総会愛媛大会を2024年6月8日(土)~9日(日)に愛媛県松山市にある松山市総合コミュニティセンターで行われました。今回の大会は、シンポジウム、懇親会を全国脊髄損傷者連合会と合同開催することとなりました。

全国頸髄損傷者連絡会全国総会は、愛媛大会2日目10時から行われ、宮野事務局長より総会の成立の報告が行われました。会場参加25名、オンライン参加5名、委任状146名、合計176名、当会の議決権を持つ会員合計391名。総会の成立条件を無事満たし、開催が成立しました。事務局により、議長に鈴木太氏を推薦。承認採決をされ、総会議事進行が始まりました。

2023年度活動報告 本部・各支部

2023年度収支報告 会計監査報告

2024年度役員選出

頸損者を取り巻く現状と課題

2024年度活動方針提起

2024年度予算提起

が審議され、承認された。

活動報告では、以前からの問題としてもあげられているが、会員数の減少、会員の高齢化があげられる。活動がままならず、活動休止せざるを得ない支部もある。再生医療等ではいろいろと騒がれているが、頸髄損傷が、今現在ではまだ完治するものではないと思われる。頸髄損傷者の諸問題を解決するためには、連絡会存続が大事であり、新規加入者を呼びかけたり、若年層の会員を増やす活動が必要あります。

分野別活動方針では、各分野の方針が出されているが課題があります。解決のためにより一層の活動が必要であり、訴えていく必要性があります。連絡会の中だけではなく、協力者や他団体との協同をし、その問題解決に努めていきたい。

近年コロナ感染症のため、対面での活動が厳しかったが、各支部少しずつではあるが、対面での活動が行えるようになってきた。特に、関西方面での活動が多く行われてきている。

収支報告では、収入が少なくなってきたとの報告があった。今後、助成金などの活用していかなければいけないとの報告があり、日本損害保険協会の自賠責運用益拠出事業等の助成金取得のための申請をしていくことになった。

2024年度役員選出は、会計監査の毛利氏（香川）以外は昨年度からのほぼ再任となった。前述したが連絡会存続のためにも、後任者の養成や若年層の役員加入も重要である。そのためには、各支部の活動を活発に行うために、本部も積極的に支援を行います。

2024年度活動方針提起では、活動重点目標として、
☆生活を向上させるための法律・制度・サービス改善交渉を行う

☆当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す

☆障害者支援を目的とする機関とのネットワークを拡げる

が、挙げられました。

具体的には、行政交渉、シンポジウム、セミナー、セルフヘルプ活動、ピアサポート活動、交流活動、情報提供、頸髄損傷者の基本的問題に関する調査などを行っていきます。

全国頸髄損傷者連絡会は、これからも会員の皆様と一緒に、私たちの生活が良くなるよう、活動を行っていきたいと思いますので、ご支援・ご協力を宜しくお願ひいたします。

2023年度 本部活動報告

[2023年]

- ・4月 全国機関誌「頸損139号」発行（編集会議4回）
- ・4月8/9日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・4月19/20日 バリアフリー2023総合福祉展参加（インテックス大阪）
- ・4月29日 全国脊髄損傷者連合会合同イベント「65歳問題学習会」打ち合わせ（オンライン）
- ・5月7日 第8回To be yourself「65歳問題」（オンライン）
- ・5月12日 全脊連総会のシンポジウム「脊髄損傷者の排泄について」について打合せ（オンライン）
- ・5月29日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・5月27/28日 DPI日本会議・全国集会（オンライン）
- ・6月3/4日 第50回全国頸髄損傷者連絡会総会（兵庫県姫路市）
- ・6月9/10日 全国脊髄損傷者連合会 第22回定時総会 福岡県大会（福岡県福岡市）
- ・7月16日 第9回To be yourself「65歳問題2」（オンライン）
- ・7月23日 2023年度臨時総会（オンライン）
- ・7月24日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・7月29日 第4回川内アクセス塾2023へ参加（オンライン）
- ・8月 全国機関誌「頸損140号」発行（編集会議4回）
- ・8月19/20日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・8月24/25日 第37回リハ工学カンファレンスin東京（東京大学 先端科学技術研究センター）
- ・9月3日 全国頸損代表者会議（岡山国際交流センター&オンライン）
- ・9月25日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・9月30日 第10回To be yourself「65歳問題3」（オンライン）
- ・10月2日 全国脊髄損傷者連合会・省庁交渉2023参加（参議院議員会館）
- ・10月4日 全国脊髄損傷者連合会合同イベント「65歳問題学習会」打ち合わせ（オンライン）
- ・10月14日 第17回ケアリフォームシステム研究会全国大会in豊橋（愛知県豊橋市民文化会館）
- ・10月21/22日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・10月21日 第14回 福島・栃木・東京・神奈川 4都県合同交流会（都立産業貿易センター浜松町館）
- ・10月28日 「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラム2023賛同
- ・10月28日 京都頸髄損傷者連絡会40周年記念式典（京都テルサ）
- ・11月2日 介護と障害制度の連携について（オンライン）
- ・11月12日 第19回 四国頸損の集い2023（愛媛県四国中央市）
- ・11月13日 全国脊髄損傷者連合会合同イベント「65歳問題学習会」打ち合わせ（オンライン）
- ・11月25日 全国脊髄損傷者連合会合同イベント「65歳問題学習会」（TKPガーデンシティ大阪梅田）
- ・12月 全国機関誌「頸損141号」発行（編集会議4回）
- ・12月3/4日 第11回DPI障害者政策討論集会（オンライン）
- ・12月11日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・12月13日 第11回To be yourself「排泄問題」打ち合わせ（オンライン）
- ・12月17日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）

[2024年]

- ・1月27日 第7回災害リハビリテーション支援研修会（オンライン）
- ・1月30日 本部執行役員ミーティング（オンライン）
- ・2月17日 第11回To be yourself「排泄問題1」（オンライン）
- ・2月23日 車椅子の航空機搭載に関する課題について・登壇（神戸学院大学・神戸三宮サテライト）
- ・2月24/25日 DPI 日本国会議・常任委員会（オンライン）
- ・3月3日 全国頸損代表者会議（岡山国際交流センター&オンライン）
- ・3月10日 日本リハビリテーション工学協会乗り物SIG勉強会・登壇（練馬区立区民産業プラザ）
- ・3月11日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・3月23日 DPI女性障害者ネットワーク新実態調査報告書完成学習会in京都（京都テルサ）
- ・3月29日 総会資料作成に当たってのミーティング（オンライン）

【日常・継続的活動】

- 全国総会（年1回）、代表者会議（年2回）等を定期的に開催し、問題点の掘り起こし、且つ共有を図り、頸髄損傷者をはじめとする重度障害者の生活向上のための活動を行っている。昨年度は対面とオンライン（Web会議ツール「Zoom」を使用）の併用で開催した。
- DPI 日本国会議の会員団体として積極的に参加し、障害者運動全体の中での役割を果たしている。常任委員として副会長・村田恵子氏が常任委員会や分科会に出席している。
- 会員および会員以外の頸髄損傷者が安心して交流できる場を作ることを目的として、毎月第2土曜日の11:30～13:00にオンラインランチミーティングを開催している。
- 本部運営を円滑に行うため、毎週水曜日の16:00～17:00に役員および運営への協力要請に応じてくれる頸髄損傷者メンバーによるミーティングを実施している。
- 日本リハビリテーション工学協会理事（事務局次長・鈴木太氏）等の関係団体役員及びメンバーとして積極的・継続的に活動している。
- 福祉機器開発に際してスタッフの一員として、またはモニター等に積極的に参加し、当事者としての意見発信をしている。
- 電車・バスなど公共交通運営各社との交渉等、障害者の生活圏拡大のための活動に参加している。
- 「東京オリンピック・パラリンピックを機にインクルーシブ社会実現のため」の活動に継続的に参加している。
- 一般社団法人 日本福祉用具・生活支援用具協会（JASPA）が行うISO活動における各分科会に委員として事務局長・宮野秀樹氏が出席し協力をしている。
- 全国本部への会員・家族・関係者からの相談・質問への対応をしている。
各支部からの相談に対して、他の支部の協力も得て、解決への方向を共に探っている。
- 会員・関係者（団体）への情報発信、活動の報告のために、全国機関誌『頸損』を4月・8月・12月の年3回定期的に発行している。機関誌編集のための会議を各号4回行っている。
その他の資料提供を行っている。
全支部参加のメーリングリスト等を活用し、情報の相互発信を行っている。
- 重度障害者の生活向上に有益な、調査・研究のためのアンケート調査等への協力をしている。

2024年度 活動方針提起

■活動の基本的な考え方

「Take Action(行動を起こす)」を胸に！～新しい時代に向けて～

当会は設立以来、どんなに重い障害があっても自立して生きられる社会を目指し、交流・連帯を深めながら生活を改善し、個々の問題解決のために「Take Action（行動を起こす）」してきました。

新型コロナウイルス感染症が話題になることも少なくなりましたが、外出自粛が求められる中で、利便性が増したICT（情報通信技術）を活用し、さらなる「Take Action（行動を起こす）」を目指すべきです。

2024年4月1日から、全ての事業者における合理的配慮の提供が義務化されます。しかし、事業者が合理的配慮の概念や具体的な実施方法を理解していない場合、適切な対応が取られない恐れがあります。従業員への教育や意識向上が不足していると、配慮が行われないことが起こり得ます。また、形式的に最低限の対応だけが行われ、根本的な環境改善やサービスの質向上に繋がらない場合、真の意味での合理的配慮の提供とはなりません。そのため、各障害者団体や関連団体と協力し、合理的配慮の提供の定着化に向けて働きかける必要があります。

医療分野では、昨年度より新型コロナウイルス感染症が「2類感染症」から「5類感染症」に分類されたことにより、マスク着用や感染予防対策が個人の判断に委ねられることになりました。しかし、呼吸器に疾患を抱える我々頸髄損傷者にとっては依然として脅威です。治療後も体力が戻らず、退院を余儀なくされ、以前の生活に戻れずに苦しい日々を送っている話もよく聞かれます。頸髄損傷者が適切なケアを受けられる医療機関が少ないのが現状であり、必要なリハビリテーションを提供できる医療点数制度も不十分です。適切なリハビリサービスを提供できる病院や施設が減少しています。医療分野におけるサービスについては、当事者の必要とするサービスと現状の制度のギャップを分析し、地域格差を解消し「必要なサービスを、必要な人が、必要な時に」提供されるよう、政府に働きかける必要があります。また、頸髄損傷者に十分な対応ができる医療体制や医師・看護師の拡充のため、各地域で頸髄損傷者への理解を求める学習会や周知活動を行う必要があります。

福祉用具は、我々全身性の障害がある者が心豊かに暮らるために不可欠なものです。生活や環境によって利用条件が異なるため、個々の生活に合った福祉用具の利用が求められます。しかし、地域によって支給内容に違いがあるのが現状です。同じ障害を持つ者が住む地域によって不利益が生じないよう、関係機関への働きかけが必要です。

社会の一員として当たり前に生きること、主体性が認められた社会人として生きることができる社会を目指しています。そのためにも、一人ひとりが「何をすべきか？」を考えて行動する必要があり、当会もその行動に対してできる限りの協力をしていく所存です。

■基本活動

ひとり人が行動しよう！

頸髄損傷者が尊厳を奪われることなく、真にひとりの人間として心豊かに生きるために、自己信頼の回復が必要になる。それは困難を乗り越え、成功・感動を体験することで取り戻すことができる。

当会には逆境をはねのけ、人生を取り戻した経験者や、幾多の失敗を糧に、次こそは上手くやると困難に挑む挑戦者が数多くいる。必要とする情報を提供して人生を取り戻す一助となるのが当会の最大の目標であり、孤独になりがちな頸損者のためにひとり人が行動するセルフヘルプ活動を行っている。

頸髄損傷者連絡会は当事者団体ではあるが、情報の提供は会員、非会員を問わず提供することを会活動のひとつとしている。今年度も以下の項目を活動の柱として運動を続ける。

- 頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践
 - ・各支部間の交流、支部のない地域での出張活動・招待活動等
- 頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す
 - ・代表者会議、支部間交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る
- 情報を収集し、頸損者及び関係機関等への情報提供をより充実させる
 - ・機関誌・HPの内容充実、講演活動の充実
- 障害の枠を超えた各分野との交流・活動
 - ・障害者団体、公的機関、学会、教育機関、分野別メーカーとの交流や関連会合への出席
- 他団体との統一行動
 - ・介助、交通・まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動を行う

■活動重点目標

- ☆生活を向上させるための法律・制度・サービス改善交渉を行う
- ☆当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す
- ☆障害者支援を目的とする機関とのネットワークを広げる

■分野別活動方針

●障害者の権利保障

- ◎障害者差別解消法の改正により民間事業者が適切に合理的配慮の提供ができるように対話していく。

●介助制度

- ◎頸髄損傷者の地域での自立生活が確立できる介助制度の拡充を関係機関に求めていく。
- ◎65歳問題により地域生活が困難に陥ることを防ぎ、問題解決を関係機関に働きかけていく。

●交通・まちづくり

- ◎交通・まちづくりで障壁となる事例を集め、国や地域に声を届け、解決策を求めていく。
- ◎各種会議、研修等に、積極的に参画し、当事者の声を届けていく。

◎学習会開催などを通して、アドバイザー、講師として活躍できる人材の育成を行っていく。

●福祉用具（補装具・日常生活用具）

◎福祉用具が、適確、迅速、安価に継続的に入手できるよう求めていく。

◎自己負担軽減と地域格差解消に向けて準備していく。

◎福祉用具の適切な選択、使用方法を指導助言できるネットワークを構築していく。

●医療関係

◎多くの医療関係者に頸髄損傷という障害について深く知ってもらう場を設けていく。

◎頸髄損傷者が必要とする医療を提供している医療機関の情報を地域ごとに当事者間で共有していく。

◎新しく始まった重度の脊髄損傷者の維持期・慢性期におけるリハビリテーション入院の活用と情報提供を広くおこなうと同時に医療制度でも同様の制度化を求めていく。

●住宅環境

◎バリアフリーに対応した公営住宅のさらなる整備を求めていく。

◎住宅整備・改修助成制度の改善を求めていく（助成項目の見直しや助成費用を適正額にする）。

◎頸髄損傷者の住宅改修について事例を集め、情報を提供できるようにしていく。

◎住宅改修についての専門知識を持つ人材のさらなる拡充を行っていく。

●所得保障・就労

◎全国で重度障害者が介助を利用して就労できる仕組みを求めていく。

◎申請はスムーズにできるようになるべく簡略化することを求めていく。

◎現在の重度訪問介護を就労にも利用でき、なおかつ報酬単価も通常の重度訪問介護報酬単価と同じにすることを求めていく。

●女性の権利

◎女性リーダーの養成を行っていく。

◎女性頸髄損傷者の交流の場を拡大していく。

◎専門家等との連携による学習会を開催していく。

令和5年度 全国頸髄損傷者連絡会 収支計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

収入の部

科目	金額
本部会費	75,000
本部運営分担金	532,500
寄付金等収入	47,500
誤入金	10,500
機関紙等売上代金	14,220
受取利息	15
旅費交通費	42,280
小計	722,015
前期繰越	2,702,550
合計	3,424,565

支出の部

科目	金額
団体加盟費	180,575
事務所使用料	180,000
事務諸経費	273,564
機関紙等・発送・印刷費	543,690
誤入金	14,000
会議費	17,200
雑費	7,402
旅費交通費	390,115
小計	1,606,546
次期繰越金	1,818,019
合計	3,424,565

上記のとおり報告します。

令和6年4月1日

会計

三ツ井 真平



令和5年度の会計について監査を執行し
収支は適正であり会計報告は正しく表示されていることを認めます。

令和6年4月1日

会計監査

毛利 公一



2024年度 全国頸髄損傷者連絡会 予算

(2024年4月1日～2025年3月31日)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越	1,818,019	団体加盟費	80,000
本部会費	150,500	事務所使用料	180,000
本部運営分担金	469,800	事務諸経費	90,000
寄付金等収入	500,000	通信・発送費	200,000
助成金等収入	600,000	機関誌等印刷・編集費	500,000
		会議費	100,000
		旅費交通費	400,000
		予備費	50,000
		次期繰越	1,938,319
	3,538,319		3,538,319

※新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、通常の活動（対面式での活動）を想定した予算案として作成しています。

2024年度 本部役員・事務局体制

■本部役員

会 長	鴨治 慎吾（東京）
副 会 長	八幡 孝雄（東京）
	村田 恵子（京都）
事務局長	宮野 秀樹（兵庫）
編 集 長	宮野 秀樹（兵庫）（兼任）
会 計	三ツ井 真平（愛媛）
会計監査	毛利 公一（香川）

■事務局員

事務局次長	鈴木 太（愛媛）
事務局長補佐	関根 彩香（本部）
事務局員	青山 和幸（岐阜・ホームページ担当）
	篠田 義人（岐阜・会計補佐&ML管理担当）
	島本 義信（大阪）
	井谷 重人（愛媛）
	毛利 公一（香川）

全国総会運営に携わって

CIL 星空 高橋 愛実

今回、全国総会を愛媛で開催するということで初めて運営に関わらせていただきました。一度も全国総会に参加したことがなかったため、どのくらいの規模でどのような形になるのかきちんと想像できていませんでした。実行委員会で動き始め、井谷さんや鈴木さんから説明を受け徐々に内容等を把握していくと、私の中で「うまくいくかな」「きちんとまわせるかな」という不安が大きくなっていました。

その中の一番の不安は、ボランティア担当と全体司会を任せられた時です。一つずつ、どんな気持ちだったかを書いていこうと思います。

まず、ボランティア担当についてです。井谷さんから「学生と関わる機会も多いし、きちんと責任を持ってやってほしい」と言われた時、一気に不安と責任感がのしかかってきました。それまでは、どこかお客様感覚が抜けておらず、「言われたことをやればいい」という気持ちがあったのだと思います。だからこそ、「自分がしっかりしないといけない。きちんと回していかないといけない」という気持ちが出てきたのを覚えています。

ボランティア集めから説明会まで一生懸命動いていました。しかし、他の仕事と並行して行っていたため自分一人では余裕が無く、全て行うのは不可能でした。だからこそ、一緒に動いてくれた当団体メンバーである井上さんの存在は大きなものでした。私が動けない時など助けてもらったからこそ、何とかこなすことができたと思います。当日は、他のメンバーにもたくさん助けていただき、誰かがいてくれることは凄く重要なことだということを改めて実感しました。

次に全体司会についてです。絶対に失敗は許されないと想い、前日の夜まで台本の読み合わせを行いました。これまでも、イベントの司会を行ったことはありましたがあ、今まで以上の緊張とプレッシャーに襲われたのを覚えています。「自分で本当に良かった

のかな」と何度も考えました。これほどまでに大きな会の司会を担当していいのか、直前まで不安で仕方ありませんでした。しかし、周りがいつものように接してくれたことで、私の不安は少しずつ無くなり、いつもの自分としてこなすことができました。

今回、重要な役割を任せていただいたことで、改めて周りと協力することの大切さを知りました。そして、仲間の存在がどれだけ大きなものかも知ることができました。

今まで、何でも自分一人でこなすことが素晴らしいことと思っていたが、それではいいパフォーマンスはできないこと。周りに助けてもらうことにより、今まで以上のパフォーマンスが可能となることを知りました。このことは、これから活動にも関係してくることだと思います。凄くいい経験ができました。

今回経験したことを活かしながら、仲間たちと一緒に地域での活動を盛り上げていこうと思います。



公開講演Ⅱ

「就労支援特別事業、職場介助助成金、通勤援助助成金の活用について」

兵庫頸髄損傷者連絡会 島本 卓

2024年6月9日(日)、大会2日目に公開講演Ⅱ「就労支援特別事業、職場介助助成金、通勤援助助成金の活用について」というテーマで行われました。

最初に、2023年度厚生労働省の調査研究事業に携われた全国脊髄損傷者連合会 事務局長 安藤信哉氏が話されました。重度訪問介護はガイドヘルプを利用することはできますが、通勤中、職場内で利用することができません。2003年の支援費制度のスタートから、20年以上も変わっていないのが現状です。

安藤氏は支援費制度を利用しながら大学院に通おうと考えていましたが、支援費制度では通勤、通学通所には利用できなくなり大学院に通えなくなったと言われていました。そのことがきっかけに障害者運動に関わるようになり、通勤、通学、通所の問題がライフワークにもなっていると言われていました。

2020年には雇用施策において、職場介助助成金、通勤援助助成金があり、福祉施策側では就労支援特別事業が創設されています。次に、福祉施策の就労支援特別事業の利用状況ですが、大学の就学支援事業に比べても就労支援特別事業が多く利用されていることがわかりました。従来の職場制度に比べて、通勤のガイドヘルプが対象となり、職場介助人数も増え、支給期間や支給限度額が増えたことで使いやすくなっています。しかし利用するための申請手続きが大変であると言われていました。重度訪問介護事業者が考える就労支援特別事業の課題として、利用者が知らない、企業にも周知がされてないのが現状で、全ての市町村が実施しているわけではないということがあります。利用者としては自宅内でも、通勤や職場内でもシームレスに利用できるようになれば使いやすく、全国脊髄損傷者連合会での要望事項として実現に向けて働きかけたいと言われていました。

続いて、大阪府泉大津市の制度運用について、特定非営利活動法人自立生活センター・リアライズ会長 三井孝夫氏が話されました。法人内に自分が働いている部署があって、違う部署に介護派遣事業があると、その就労している法人内の介助派遣事業所は使うことができません。そうなると生活や仕事にも大きな影響が出てきてしまいます。例えば体調不良の際、急な予定変更があった際にも法人と同じ介助派遣事業が利用できると使いやすくなると言わっていました。制度を利用する際の課題について、国から各市町村に通知を出してもらい、これから制度を作っていくとする地域が良い事例を元に制度がつくられることが重要である。「重度訪問介護」、「就労支援特別事業」、「職場介助助成金」の3つの制度が重度訪問介護に一本化されることで制度が利用しやすくなるのではないかと言われていました。

最後に、京都市重度障害者等就労支援特別事業について、特定非営利活動法人 京都頸髄損傷者連絡会の中山泰紀氏が話されました。この制度を利用する前は、業務のお手伝いや食事の準備等で同僚に頼みにくかったが、制度を利用して介助を受けられるようになりました。ただし企業雇用をされているので、JEEDと京都市に申請をしなければいけません。利用にあたって重度訪問介護の報酬単価よりも低いこともあります。引き受けてくれる事業所が少ないことが現状です。

この制度を重度障害者が利用していくためには、就労中に介助を受けながらできる体制づくりと、申請にあたる申請書の簡略化、報酬単価を重度訪問介護と同じようにすることが重要である。これから利用しやすくするためにも、国に働きかけていかなくてはならないと言われていました。

第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会参加報告

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田 浩敬

1、はじめに

6月8日(土)、9日(日)で開催された、第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会に参加してきました。今回は、全国脊髄損傷者連合会と合同で開催することになりました。

私が初めて参加した全国総会は、2012年に行われた愛媛大会でした。その当初は、出会う方のほとんどが、初対面の方たちだったので、何を話して何を聞けば良いのかわからず、緊張したことを覚えています。あれから12年が経ち、日本各地のあらゆる地域に、多くの仲間が出来ました。

今回は、愛媛県で出会った人々と、その土地でしか味わえない美味しいグルメ、観光名所を交えつつ、第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会に参加した様子を報告させて頂きます。

2、概要

第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会
日 程： 2024年6月8日（土）- 9日（日）
開催場所：松山市総合コミュニティセンター

第一日目：2024年6月8日（土）

全国脊髄損傷者連合会の代表者会議 12:30-14:30

1. 式典 14:50-15:50 (*)
2. シンポジウムI 16:00-17:00 (*)
3. 記念撮影 17:00 (*)
4. 懇親会 18:00-20:00 (*)

第二日目：2024年6月9日（日）

1. 全国頸髄損傷者連絡会総会 10:00-12:00
2. シンポジウムII 12:10-13:10 (*)

全国脊髄損傷者連合会の総会 13:20-16:20

(*) は、全国脊髄損傷者連合会と合同で開催。

3、アクセス

今回、愛媛県へ行く手段として、電車を利用することにしました。在来線でJR新神戸駅まで向かって、そこから新幹線でJR岡山駅へ向かいます。JR岡山駅で特急列車に乗り換えて、愛媛県松山市を目指します。今回、愛媛県へ電車を利用して行くにあたり、問題だと思う所がありました。JR岡山駅とJR松山駅の間を結ぶ特急列車は、1時間に1本しか運行しません。そんな、運行本数の少ない特急列車ですが、電動車椅子ユーザーが乗車スペースに余裕を持って移動することが難しいと、JRのスタッフから告げられました。ただ、車椅子の乗車スペースが3席ある特急列車の場合は、大きな電動車椅子でも余裕を持って、移動出来るのではないかと伺いました。ただ、そこにも問題点があり、車椅子の乗車スペースが3席ある特急列車は、1日4本しか運行しておらず、チケットの予約が難しくなると考えられます。

1日あたり、特急列車の運行本数は片道14本になります。今回のように、全国的なイベントが開催されると、多くの車椅子ユーザーが特急列車を利用することになります。その場合、車椅子ユーザーは、自身の希望する時間帯のチケットを、購入することが難しいのではないかと考えられます。

私は、早くチケットを予約しなければ、全国総会に参加出来ないのではないかと思ったので、JRの「みどりの窓口」にて、チケットが予約可能な1ヶ月前になってすぐに予約しました。案の定、幾つかの特急列車は既に予約済みになっていたので、第二候補の時間帯で特急列車を予約しました。

4、松山市内を散策

私は全国総会を楽しみにしていたので、余裕を持って前泊することを計画しました。

6月7日(金)、私は、午前中愛媛県へ向かって出発しました。自宅を10:30に出発すると、JR松山駅に

到着するのが15:30頃になる予定です。JR岡山駅までは、それほど時間はかかりませんが、JR岡山駅からJR松山駅まで、約3時間かかります。私は、コンビニで購入したおにぎりを食べ終わり、車窓から見える景色を眺めながら特急列車の旅を、楽しんでいました。特急列車は順調に進んで、予定していた時間通りJR松山駅に到着。そこから伊予鉄道松山市内線の、松山市駅にあるホテルを目指します。しかし、JR松山駅前停留場は、松山市駅へ向かう方向の停留所に段差があることから、車椅子ユーザーは利用することが出来ません。反対方向に向かう停留所は、スロープがあるのですが松山市駅へ行くために、40分かかると伊予鉄道の運転手に言われました。JR松山駅から松山市駅まで歩いて行くことも可能だと、伊予鉄道の運転手に言われたので、仕方なく徒歩で向かいました。JR松山駅から松山市駅までは、距離的に1km程だったので、20分で宿泊先のホテルに到着しました。

早速ホテルにチェックインして、予め手配をしていた床走行式リフトを受け取り、ホテルの部屋に向かいました。床走行式リフトは電動車椅子からホテルのベッドへ移乗する際に利用します。ホテルの部屋に入ってから、床走行式リフトを組み立てて、バッテリーを充電しました。以前、床走行式リフトを使ってベッドへ移ろうと思った時に、バッテリーの充電切れで利用することが出来なかつたことがあったので、私は床走行式リフトを組み立てたら、すぐにバッテリーを充電する様にしています。

その後、松山市内を散策することを考えていたので、準備を整えてホテルをあとにしました。銀天街を通りブラブラ散策。銀天街から大街道を抜けてから、翌日松山城登城を計画しているので、松山城ロープウェイ乗り場の場所を確認しました。そこから、大街道にあるスターバックスでひと休憩しました。余談ですが、12年前も同じ大街道のスターバックスに立ち寄りました。当時を思い出し懐かしく感じました。周りの様子は全く変わっていません。

さて、そこから大街道停留所で乗車して、JR松山駅前停留所まで向かうことになりました。途中、松山市駅を経由します。JR松山駅前停留所から、松山市駅

までは利用することが出来ませんでしたが、松山市駅からJR松山駅前停留所までは利用することが可能になります。

今回は、同じく兵庫県から参加されるR子さんが19:30頃、JR松山駅に特急列車が到着するので、迎えに行きました。その後、無事にR子さんと合流してから、再度歩いてホテルへ向かい1日目を終えました。

5、2日目

朝から外出の支度を行って、ホテルの朝食へ向かいます。流石、愛媛県と言えば“みかん”。朝食ビュッフェには、みかんジュースの飲み比べがありました。様々な種類のみかんジュースを味わうことが出来るのですが、酸味の強い物から甘みの強い物まで豊富に取り揃えてあり、朝から贅沢な時間を過ごすことが出来ました。

朝食後、9:30に松山市駅でR子さんと合流しました。そこから大街道停留所へ向かい、松山城ロープウェイ乗り場を目指します。

大街道停留所から徒歩数分で、松山城ロープウェイ乗り場に到着しました。私たちが到着してすぐに、全国頸髄損傷者連絡会事務局長の宮野さんと合流しました。今回で2回目の松山城登城です。松山城ロープウェイを降りてから、中盤までは比較的楽々登ることが出来ますが、松山城本丸に近づくにつれて、勾配が急になって路面も荒くなっています。段差や階段にはスロープが設置してあるのですが、なかなか容易に登城出来ません。介助者や周りの観光客からのサポートを受けながら、ようやく松山城本丸まで登り切りました。

6、松山グルメ

松山のグルメと言えば、じゃこ天や鯛めしといった海産物が有名です。しかし、それ以外の松山グルメはというと何でしょうか。たまたま、私の利用する訪問看護ステーションの看護師が、愛媛県松山市出身ということで、松山のグルメについて聞いてみました。その看護師曰く、鍋焼きうどんが有名だと教えてくれました。私は、鍋焼きうどんが有名ということを

全く知らなかつたので、今回は鍋焼きうどんを食べることにしました。

松山市内にある有名店は「アサヒ」と「ことり」の2店舗です。松山市の鍋焼きうどんは、出汁が甘いのだそうで、とても興味深いです。私とR子さんは、今回「アサヒ」へ行くことにしました。

店内は昭和レトロな雰囲気で、入り口に段差なども無かったので、スムーズに入店することが出来ました。目当ての鍋焼きうどんはというと、銀の小鍋に入っていて、昔懐かしい鍋焼きうどんといった感じです。実際に食べてみた感想は、麺は讃岐うどんのように跳ね返ってくるような“コシ”は無く、どちらかというと、ツルッとモチモチした食感でした。そして出汁ですが確かにほんのりと甘味があって、個人的には大好きな味でした。また皆さんも松山を訪れた際に昔懐かしい優しい味を、是非ご賞味ください。

7、第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会

昼食後、全国総会の会場である、松山市総合コミュニティセンターに向かいました。到着した時は、会場には入れない状況でした。少し待機しようと思い休憩スペースへ行くと、京都支部の会長である村田さんも待機中でした。近ごろよくお会いするので、色々とお喋りしていたところ、会場が開くということで移動しました。ここからは、式典とシンポジウムⅠが行われます。その後、記念撮影を行ってから懇親会が予定されています。

今回は、全国頸髄損傷者連絡会と全国脊髄損傷者連合会の合同開催になるので、初めてお目にかかる方と、繋がりを持つことが出来る良い機会になりました。私は、多くの方と積極的に名刺交換を行いました。SNS上で繋がっている方もいらっしゃったので、挨拶を交わして情報交換を行いました。京都、大阪といった近隣の方もおられたので、近々お会いすることがあるかも知れないと思いながら、多くの方と繋がる時間になりました。

記念撮影の後、懇親会が始まりました。愛媛大会実行委員長である井谷さんから、初めの挨拶が述べられました。皆さん和やかな雰囲気で、和気藹々とされていました。松本隆博氏のライブもあって大変盛り

上がった懇親会になりました。

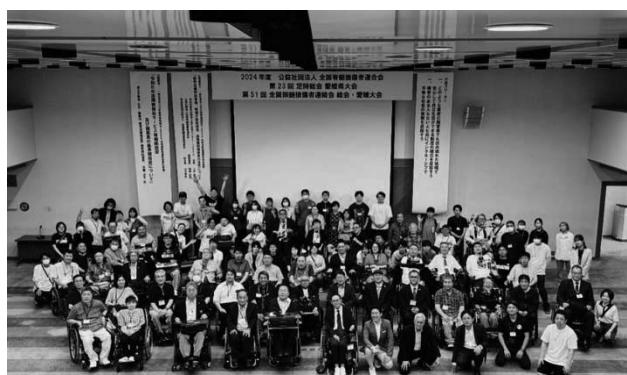
全国総会二日目は、総会が行われました。各支部から活動報告が行われました。支部ごとに、それぞれどういった活動を行っているのか、情報を共有することが出来ました。

その後は、就労支援事業の職場介助制度について、シンポジウムが開催されました。仕事を行うにあたり、ヘルパーを利用する中での問題点と、制度のシステムで矛盾している箇所があることが、報告として挙がりました。しかし、自分自身のことではないために、話を聞いていてもピンとこない点が多くて、理解を深めるためには、もう少し勉強することが必要だと感じました。

8、まとめ

私は、今回で3回目の愛媛県訪問になりました。2012年、全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会、2019年CIL星空主催のピアカウンセリング集中講座、そして今回、第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会になります。

この3日間は、楽しい思い出が沢山出来ました。多くの方から、親切に対応していただきました。懐かしい方から新しく繋がった方々まで、良い人たちに沢山出会いました。一期一会、日本の総人口は約1億2000万人とされる中、何かの縁で人と人が出逢い、またそこから新しいことが生まれてきました。これからも出逢いを大切にして、人生を豊かなものにしていきたいと感じた、第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会でした。



記念撮影

事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会事務局

○2024年度全国総会報告

全国頸髄損傷者連絡会 2024年度総会は、6月9日（日）10:00～12:00の日程で、会員の皆様のご協力のもと、すべての議案に対して承認いただき無事終えることができました。出席者も、会場参加25名、オンライン参加5名、委任状146名の計176名と、総会成立のための定足数を十分に満たすことができました。議案に関しても、2023年度 年間活動報告、2023年度 収支報告・監査報告、頸損者を取り巻く現状と課題、2024年度 本部役員・事務局体制案、2024年度 活動方針提起、2024年度 予算案と、議案の通りに進行できました。監査報告の中で、会計監査から「収入に対して支出が上回っているため、収入を増やすか支出を減らすかの工夫が必要」との指摘がありました。対面での活動が増えたことが要因のひとつではありますが、セルフヘルプ事業を控えることは当会の活動の根幹を揺るがすことにつながるため、収入を増やす努力と経費削減の努力を行ってまいりたいと考えています。会員の皆様にもご理解いただき、どうかご協力をくださいますようお願いいたします。本年度も役員および事務局メンバー一同、全国頸髄損傷者連絡会の活動発展のために努力してまいりますので、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。なお、総会資料は、下記サイトからPDFがダウンロードできますのでご覧ください。

URL : <https://k-son.net/soukai/>

○お知らせ（訃報）

2024年8月30日（金）、全国頸髄損傷者連絡会の事務局長をはじめ、副会長や編集長と要職を歴任いただいた八幡孝雄氏がご逝去されました。全国の頸髄損傷者をはじめ重度の障害がある仲間のために活動し、バリアフリーや制度の変革に尽力され、そして会の運営にも多大な貢献を残されました。故人の功績をたたえ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

全国頸損連絡会＆関係団体 “年間予定” (2024年9月～2025年3月)

事務局

[2024]

12月10～12日（火～木） ニーズ・シーズマッチング交流会2024
(東京都立産業貿易センター浜松町館)

[2025]

2月2日（日）	全国代表者会議（春）	(岡山国際交流センター)
2月23日（日）	全国頸髄損傷者連絡会＆全国脊髄損傷者連合会・合同イベント	(京都テルサ)

※予定日時・場所は変更になる場合があります。対面開催からオンライン開催になる場合がございま
すのでご了承ください。

※全国機関誌『頸損』発行 4月・8月・12月（年3回）

※お問い合わせは該当各支部、本部事務局までお願いいたします。

新幹線の車いす席や障害者割引乗車券のネット予約について

兵庫頸髄損傷者連絡会 橘 祐貴

新幹線の車いす席を予約したり障害者割引の乗車券を購入したりするには、これまでみどりの窓口で購入する必要がありました。インターネットでも障害者割引の乗車券や新幹線の車いすが席の予約が可能になりました。利用には条件がありますが、みどりの窓口に行かなくても車いす席の予約や切符の発券ができます。インターネットでは利用当日に車いす席を予約することも可能です。

JR 東日本と JR 西日本では車いす席のネット予約が可能に

JR 東日本と JR 西日本ではインターネットで新幹線の車いす席を予約できるようになりました。これまでみどりの窓口へ行かなければ購入できなかった車いす席を「e5489」や「えきネット」「スマート EX」で予約・購入できるようになりました。ネット予約では利用当日の予約も可能です。

ネット予約ができるのは、「e5489」では東海道・山陽・九州新幹線(東海道新幹線区間はのぞみ停車駅のみ)と北陸新幹線の一部の駅、「えきネット」では東北・秋田・山形・上越・北陸・北海道新幹線で、乗り換えのない区間の利用に限られます。車いす席は移乗席あり(B席)、移乗席なし(E席)、車いす付添席(A席)の3種類から選べます。同時に複数の座席を予約することはできないので、1席ずつ予約する必要があります。なお多目的室についてはネット予約に対応していません。

「車いす対応座席の予約」(スマート EX) https://smart-ex.jp/reservation/reserve_smart/wheelchair/
「車いす対応座席(新幹線)(e5489 予約)

<https://www.jr-odekake.net/goyoyaku/campaign/wheelchair/form.html>

「えきネット」(JR 東日本)<https://www.eki-net.com/Personal/Top/Index>

障害者割引乗車券のネット購入

障害者割引の乗車券も「e5489」や「えきネット」で購入できるようになりました。サービスを利用するためには「e5489」や「えきネット」への会員登録と、マイナンバーカードの読み取りに対応したスマートフォン等で会員情報に障害者手帳の情報を紐づける必要があります。予約した乗車券はみどりの窓口やみどりの券売機(指定席券売機)で受け取ることができます。利用できるサービスやサービスの利用方法については各会社によって多少異なるので、ホームページで確認することをお勧めします。

「障害者割引ご利用ガイド」(えきネット)<https://www.eki-net.com/top/jrticket/guide/certification/>
「割引制度のご案内」(JR おでかけネット)

<https://www.jr-odekake.net/railroad/service/barrierfree/discount/>

ひとり暮らしをはじめて

NPO 法人自立支援センターおおいた 池上 輝

【自己紹介】

はじめまして。池上輝(ひかる)といいます。年齢は34歳です。車椅子生活になって約20年経ちました。出身は熊本県で現在は大分県別府市で自立生活をしながら NPO 法人自立支援センターおおいたで障がい当事者として活動しています。

好きな事は2つあります。1つはとにかく外に出まくっていろんなお店でおいしいものを食べること、もう1つは人と話すことです。おしゃべりが大好きなので、通りすがりの人にも声をかけたりしてお話しする事もあるくらい人とコミュニケーションを取ることが好きです。

【障害の程度、受傷の時期】

僕が受傷したのは、13歳の頃で部活動の柔道の練習中の事故です。いつもと変わりない練習をしていたのですが、日ごろの繰り返しによる気の緩みがあったと思います。相手を担いで投げたときに、畳に頭から突っ込んで首の骨を脱臼てしまいました。その時に太いゴムが切れたような音がして、そのまま意識を失ってしまいました。その瞬間から全く体に力が入らずそのまま病院に運ばれました。障害の程度は肩から下は完全麻痺です。肩を少し上げることができる程度で腕を上げたり曲げたりすることはできません。また体幹がないので胴体にコルセットを着用して車椅子に乗っています。排泄は人工肛門と膀胱路を造設によりコントロールしています。

【ひとり暮らしを始めるに至った経緯】

ひとり暮らしを始めたきっかけは、特に自分の意思があったわけではありません。受傷した日からずっと母に介助してもらって過ごしてきました。そんな日々の中で、母はもし自分に何かあったら、また親がずっと一緒にいて介助はできないと考えてい

たらしく、少しでも早く親元から離そうと思っていたそうです。そこで、大学在学中に友達とルームシェアをしながらひとり暮らしを始めることになりました。

【ひとり暮らしの準備で困ったこと】

ひとり暮らしをする前に不安だった事は、自分の介助は全て母に行ってもらっていたので、母以外の誰かに介助してもらうことがとても不安でした。言葉だけで介助してもらう人に伝わるのか？うまく伝わらなかったらどうしよう？コミュニケーションは取れるのか？どこまで介助をお願いしたらいいのか？など見えない介助者に対しての不安が大きく、何度かひとり暮らしを始めるのを辞めたいとも思っていました。また料理をするにあたり、作り方もわからない事ばかりだったので、ご飯はどうしよう？などまだ直面していない小さなことに対しても不安がたくさんありました。

見えない不安から想像が大きくなり、より不安が増幅してひとり暮らしをするという気持ちを保つのがとても大変に感じていました。

【現在の様子とひとり暮らしで変化したこと】

ひとり暮らしをする前は母に介助してもらっていたので、家の時間で全て行動が決まっていました。朝起きる時間、ご飯を食べる時間、お風呂の時間、寝る時間など。なのであまり自分のやりたいような生活はできませんでした。たしかに大体のことを言えば伝わるし、ずっと介助してもらっていたので慣れている分、体の微調整や座る位置など細かく伝えなくても分かってもらえる楽さはありました。しかし、どこかへ出かけたい時なども、母の時間や予定で決まってしまうので、思うように出かけたり、自分の好きな時に行きたいところへ行くというのはできませんでした。ひとり暮らしを始めた今では、

自由に行きたいところへ行き、食べたいものを食べる。やりたいことを自由に選択して行動する、そんな誰もがあたりまえに行っていることをあたりまえにできるようになり、受傷する前と変わらない自由な自分らしい生活ができるようになりました。もちろん介助者に細かく指示を出して伝える大変さはありますが、うまく伝わった時や共に笑い合える時間は自分の喜びにもなっています。

【センターでの活動の様子】

当団体では、どんなに重度な障がいがあっても、地域で自立した生活が実現できるための支援を行うと共に、僕たち障がい者が主体となり、別府市及び大分県へのバリアフリー観光推進事業を行っています。障がいがあることで、自分のやりたいことを諦めているという方も少なくはありません。地域で自分らしい生活をすること、行きたい場所に自由に行くこと、誰にでも平等に与えられた権利だと思います。しかし、誰に頼って良いか分からず、また情報も無い中で、その想いを実現できず、悩み、悲しみ、迷っている方多くいます。私たちは、その様な方々と出会い、一緒に考え、挑戦し、地域で生活していくために必要な経験を共に積んでいきます。自己選択と自己決定が尊重される生活。自立したいと思う気持ちがあれば、誰でも挑戦することは可能だと思います。どんな重度の障がいがあっても将来に夢や希望を持てるよう、又、障がいがある方も無い方も誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて走り続けていきます。

その中で、私は障害がある方の自立支援のお仕事や、バリアフリーマップ作りでいろいろな飲食店や観光施設を訪問して調査しています。また、福祉関係の事業所や支援学校へ出向き、当センターの活動を知って頂くためのご挨拶回りをして、横の繋がりを作るために大分県の各地を動き回っています。

【ひとり暮らしを考えている人に向けて】

親元や施設、病院を離れてひとり暮らしをする事は、とても不安だと思います。僕もひとり暮らしを始めるまでは見えない不安がたくさんでした。でも、

実際にひとり暮らしを始めると、自分が不安に思っていたことや考えすぎていたことは、介助者と一緒に乗り越えられるし、ひとり暮らしの先輩方が全国にはたくさんいらっしゃいます。相談してみると、皆さん同じようなことを乗り越えてきていますので、様々なアドバイスをして頂けます。

親元や施設、病院はたしかに安全で楽な部分もあるかもしれません、決まった時間の中で生きていくのは少し物足りないかなと思います。ひとり暮らしをする事はやはり大変なことで、リスクもあります。でもそれ以上に、今まで味わえていない楽しさや喜び、そして自由を得て自分が望む自分らしい生き方が描けると思います。

不安や悩み事は、ひとり暮らしを始めてからでも改善していく。まずは一歩踏み出す事から始めていけばと思います。ひとり暮らしは本当に楽しいし、何より自由で慣れれば慣れるほど生活が楽になっていきます。

僕の場合は親の意思でひとり暮らしがはじまりましたが、本当にひとり暮らしをはじめてよかったです。

今は、思い立った時に出かけられ好きなものを食べて、自分の意志ですべてを選択することができ、自分の望む生活ができます。

今ひとり暮らしを考えて悩まれている方は、ぜひその一歩を踏み出してほしいなと思います。その一歩でまだ見ぬ自由と楽しさの扉が開かれます。

一緒にひとり暮らしの生活を楽しみましょう。



日本リハビリテーション工学協会関西支部セミナー

障害のある人の生活を支える制度を知る

兵庫頸髄損傷者連絡会 橋 祐貴

はじめに

5月18日に神戸学院大学神戸三宮サテライトキャンパス・セミナー室を会場に、日本リハビリテーション工学協会関西支部主催のセミナーが開催されました。今回は「障害のある人の生活を支える制度を知る」というテーマで、事故による後遺障害者の経済的支援について弁護士や独立行政法人の担当者、障害児者の住環境整備に取り組んでいるNPO団体から発表があり、ディスカッションを行いました。私自身は受傷からだいぶ経っているので直接関係するテーマではありませんが、今後誰かから相談を受けた時に役立つだろうと思い参加しました。

セミナーの様子

開会のあいさつの後、初めに支援する団体の立場から自動車事故対策機構(ナスバ)の西田氏より、自賠責保険の運用益による自動車事故による後遺障害者の支援について紹介がありました。ナスバでは自動車による交通事故で脳を損傷し、治療と常時介護が必要とする重度の後遺障害者を対象とした専門の病院を設置、運営しているそうです。この施設では一般のリハビリ病院と比べて入院期間が3年以内と長くとられていて、社会復帰に向けて個々に合わせたリハビリを行っているそうです。

続いて交通事故を専門に扱っているだいち法律事務所弁護士の藤本一郎氏より、交通事故で障害を負った場合に受けることのできる制度について説明がありました。事故で障害を負った場合、入院や退院後の住宅改修など何かと費用がかかります。その人が利用できる制度について適切なアドバイスを受けることができるかが大事だと感じました。

障害児者の環境整備に特化したNPO団体ケアリフォームシステム研究会の武藤氏からは住環境の整備について話しがありました。事故で障害を負った人が自宅でできるだけ自律した生活を送るために、

その人の身体状況や生活状況に合わせた住宅改修が必要になりますが、どのような改修が必要で、どんな制度を利用することができるかを当事者や家族が把握することは難しく、適切なアドバイスができる人にかかるべきことが大事ではないかと感じました。また、ケアリフォームシステム研究会が行っている取り組みとして、障害別の住宅改修についてウェブ上で閲覧することのできる「VR展示場」の紹介があり、面白い取り組みだと感じました。

パネルディスカッション

予定よりも進行が遅くなり、パネルディスカッションの時間は短めでした。パネリストからは、退院後の生活をスムーズに始めるためにもその人が利用できる制度について適切なアドバイスができる人がかかることが大事だが、情報を得ることができない人が多いのが現状で、課題があるという意見がありました。

さいごに

今回セミナーに参加してみて、事故によって障害を負った人が退院後の生活をスムーズに始めるためには、その人が利用できる制度をうまく活用して生活の環境を整えることが大事であり、制度の利用について適切なアドバイスができる人材にかかるべきことが必要だと感じました。また、自分が利用していない制度についても誰から聞かれた時にどこに問い合わせたらよいかを答えられるよう、もっと知識をつける必要があるとも感じました。

交通事故被害者家族ネットワーク

<https://www.jiko-kazoku.com/>

NPO法人ケアリフォームシステム研究会

<https://crsjapan.org/>

NPO 法人ケアリフォームシステム研究会

第21回 全国大会 in 兵庫

兵庫頸髄損傷者連絡会 島本 卓

2024年7月6日(土)、加古川商工会議所 1F 展示ホールで開催された「NPO 法人ケアリフォームシステム研究会 第21回全国大会 in 兵庫」に参加しました。介護リフォームの匠と一緒に、できた!! がいっぱいの住まいづくり～ケアリフォームの実例と障害者のファイナンシャルプランニング～というテーマで行われました。ケアリフォームシステム研究会は、障がい者・高齢者の自立を第一に考え、介護者の負担を軽減する為の住宅改修・改造を心がけ、住環境の整備と福祉用具の活用を専門家の立場から提案し、福祉住環境の充実・向上に貢献するために様々な活動を行っています。

基調講演1では「障害年金について」、加賀栄氏(1級FP技能士/CPP認定者)が話されました。障害を負う原因は様々ですが、将来のことを考える際、障害年金を受け取るために必要な支給額や要件を知っておくことが重要であると言われていました。

私自身、受傷前に免除申請等の手続きがあることを知らず、受傷し初診日から1年の間に未納期間があったことで、障害年金の受給条件に該当せず無年金障害者となりました。あのときに情報を知っておきたかったという思いでいっぱいです。

障害年金の支給要件について

1. 国民年金加入期間中に、障害の原因となった初診日があること。
2. 法令により定められた障害等級1級または2級に該当していること。
3. 初診日の前日までに規定の保険料納付期間を満たしていること。初診日のある月の前々月までの保険料納付済み期間と保険料免除期間が、被保険者期間の3分の2以上であること。初診日のある月の前々月までの1年間に保険料の滞納がないこと。

また会社員や公務員などの人で厚生年金に加入している場合、厚生年金加入期間中に初診日があり、保険料納付要件等を満たしていれば、障害基礎年金に障害厚生年金が上乗せされて支給されます。

公的年金は、老後の年金のためだけではなく、働く方の保障にもなっています。保険料の納付について、「ねんきん定期便」や、日本年金機構に問い合わせをすることが重要であると言われていました。

基調講演2では「事故経験から生活や人生の考え方の変化」について、松尾清美氏(CRS 顧問)が話されました。大学生の時に交通事故で、下半身が完全麻痺になり車椅子生活になりました。受傷後、踵に褥瘡ができ、療養中に「どれくらい生きることができるのだろう」と考えてしまったと言われていました。同じ障害を負った仲間が、車椅子バスケットをしている姿に衝撃を受け、体を動かし、楽しみを求めて「どのように生きていきたいか」と考え方を切り替えるきっかけになったと話されました。

私が印象的だったのが「自立をして介護を考えるのではなく、介護を安定させてから自立することで不安を軽減することができる」という内容でした。福祉用具の使い方を覚えてもらい、取り入れることで、日常生活の介助負担が軽減でき、結果、QOLにつながることを改めて考える機会になりました。

今回のシンポジウムで、「障害年金」が障害者にとって将来を考えていく上で非常に重要であると学ぶことができました。障害者の自律に向けた住宅改修において、ケアリフォームシステム研究会に相談できることがとても心強いと感じました。今後も障害者、高齢者が安心して生活するために、情報交換・共有ができる場が必要であると考えています。

麻痺部を含めた全身トレーニングの紹介

ジェイ.ワークアウト株式会社
ディレクター 上田 智樹

●はじめに

ジェイ. ワークアウト株式会社（以下 JW）は脊髄損傷者専門の再歩行を目指すトレーニング施設です。ルーツをアメリカの Project Walk（世界初の脊髄損傷者専門トレーニングジム）にもち、自費のトレーニング施設として 2007 年に創設、現在は東京スタジオ（本社）、大阪スタジオ、福岡スタジオの 3拠点で日本全国や海外からいらっしゃる慢性期脊髄損傷者の方々の受け入れをしています。下は 2 歳のお子様から上は 80 代後半の方まで日々トレーニングに励んでおります。完全損傷/不完全損傷、事故/病気/先天性問わず、また頸髄、胸髄、腰髄、仙髄以下の損傷と様々な受傷状態の方が通われています。受傷歴も様々で、回復期病院を退院されてすぐにいらっしゃる方もいれば、受傷 30 年以上経ってトレーニングを始められた方もいらっしゃいます。



●ReWalk トレーニング

JW の提供する再歩行を目指す独自のトレーニング方法を「ReWalk トレーニング」と呼んでいます。ReWalk トレーニングでは 3 つのターゲットにアプローチします。

① 中枢神経（脳・脊髄）の賦活化

損傷した脊髄に対し、迂回路を作り、再び脳と体の信号が行き来できるようにすることで、麻痺部の運動機能の回復や感覚の向上を目指します。麻痺部もトレーナーが動かしたり荷重をかけたりと積極的に刺激を与え活性化させるとともに、クライアント様本人も鏡を使い、麻痺部がどう動くのか、どう感じるのか、どこにあるのかを認知していきます。脊髄損傷後は、脊髄だけではなく、脳にも廃用が起こり、麻痺部の使い方を忘れてしまうので、脳に対しても麻痺部の状態を再学習させていきます。

② 筋骨格系へのアプローチ

麻痺している部分には様々な廃用が起こります。筋肉は動かないことで痩せ細り固くなってしまいます。また立位を取らないと足の骨密度は低下し、骨折のリスクが上がります。車椅子座位時間が長かったり、痙攣が自由に出てしまったりすることで関節は固まってしまいます。そのため、立位や歩行機能を再獲得するためにはこれらを防いでいく必要があります。トレーニングでは、赤ちゃんの発育発達の過程を基軸にしながら、筋肉や関節に対し負荷をかけていきます。例えば、四つ這いを行い、体幹の筋肉を使ったり、股関節を安定させる練習をしたりします。廃用が進んできている筋肉に対しては外的な刺激も有効なので、振動や電気刺激も加えながらトレーニングを進めます。

③ 中枢パターン発生器 (CPG) の賦活化

中枢パターン発生器 (CPG) という、腰髄に存在する器官は歩行反射を促します。一度歩行をし始めると、考え方をしたり、景色を眺めたりしながら歩行し続けられるのは、この CPG が働いているからです。麻痺が出て歩行をしなくなると、この CPG も廃用してしまいます。そのため、ReWalk トレーニングでは、リズミカルな歩行パターンを再現し、CPG が改めて反応し、それにより歩行反射が起こるように促します。



●再生医療

近年注目を浴びている再生医療。iPS 細胞や間葉系幹細胞などを使用したものがありますが、再生医療を受け、機能回復を目指す際にも大切なのが、受けた前にどれだけ身体の状態を受傷前の状態から落とさずに維持できているか、また治療を受けた後にどれだけ麻痺部を動かすためのトレーニングやリハビリを受けられるかということです。実際にこれまで弊社のトレーニングと再生医療とを併用して行うことで効果が見られた方が増えてきています。

●アクティビティ/コミュニティ

トレーニング以外でも積極的に外出サポートやコミュニティ形成を行っています。歩行機能を回復された方が、次の目標として富士登山への挑戦や、テニスやゴルフなどのスポーツに挑戦をされて、それぞれ実現されてきました。また、歩行機能回復の過程においてもトレーナーの付き添いのもと、ダイビングや釣りに挑戦されたり、テーマパークに行ってアトラクションに乗って楽しんだりとクライアント様の「やりたい」を叶える活動も行っています。加えて、イベントを通してクライアント様やご家族同士のつながりを作る場を提供するとともに、近年では、オンラインコミュニティサロン「再！発見」を立ち上げ、オンライン上でもクライアント様やご家族、JWスタッフが交流を持てる場を作りました。

●歩行披露イベント「KNOW NO LIMIT」

毎年 11 月に東京お台場の国際交流館にてクライアント様の回復披露イベントを行っております。2024 年今年は 11 月 17 日（日）に行います。東京、大阪、福岡の各スタジオからその年に著しく回復成果をあ

げた方が選ばれ、当日はその方のストーリー映像とともに、回復を舞台の上で披露していただきます。2021 年の同イベントでは、元自民党総裁の谷垣様が出場され、舞台の上で得意のシャンソンを歌われながら歩行を披露されました。



●最後に

JWで大切にしている事は「脊髄損傷者の一生に向き合う」という事です。人生では進学や就職/復職、結婚や子供/孫の誕生、子供の結婚式に参列、介護状況の変化など様々なことが起こります。この様なライフイベントに対しても目を向け、ADL や QOL 向上を目指してトレーニングを行います。多くのクライアント様の足となる車椅子の事も一緒に考えられるように車椅子事業の導入や、日々体力の維持向上に努められるように車椅子ユーザー対応のセルフ型トレーニングジム「i-Self Workout」の運営も行っております。JWでのトレーニングを通して、体幹や脚がしっかりしてきたおかげで家族の介助負担が減った、痺れが減少し車椅子に長く乗っていられるようになった、便通が安定したなどトレーニングの付加価値としてこのようなことを言ってくださるクライアント様も多くいらっしゃいます。人生が一転する脊髄損傷という状態ですが、そこからの回復を目指し、J-Workout はクライアント様と共に歩んでいきます。

第12回「To be yourself」一人暮らし4 参加報告

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

今回は、一人暮らし4ということで受傷歴31年施設生活27年から出て地域で暮らし始めた井上良一さんを話題提供者とし、神戸学院大学の糟谷先生と兵庫頸損の橋祐貴氏を進行役として行われました。

進行の説明や、挨拶後、井上さんより、「一人暮らし 施設から地域へ」ということで、お話を始めました。受傷当時、まだ学生で、九州におられたそうです。車による事故で救急病院に運ばれ、頸髄損傷となり、その後、総合せき損センターや地元である愛媛県の病院などをへて、在宅生活へ
その後、障がい者支援施設に入所したこと。
施設での生活は、

6時30分	起床・モーニングケア
7時40分	朝食
10時00分	日中活動(個別活動)
12時00分	昼食
14時00分	日中活動(個別活動)
17時00分	夕食
18時00分	自由時間
21時00分	消灯
22時00分	就寝

※入浴
月曜日
・金曜日

買い物などを頼む際は、費用がかかったりする。施設の生活にも不自由さがありながらだったが、その感覚も麻痺して慣れてしまっていた。

それなりに施設の生活をしていたところに、いとこから紹介をされて、同じ障害を持つ黒船(愛媛に住む頸損者)とやり取りが始まった。最初は、メッセージのあまりの多さに少し引き気味であったし、当時は自立生活にも興味がなかったのであるが、やり取りの中でその黒船が「今度施設に伺います」という話となってきた。そして黒船が施設の私のところにやってきました。一週間後にまた黒船がやってきました。当時その時は「やばいな」と思っていた。と述べている。いろいろな意味で刺激を受けていたのではないかと感じられた。

その後、その黒船が所属している自立生活センターの自立生活講演会があることを知り、参加して障

害当事者がどういう地域生活をしているかなどを聞けた。講演会後に食事会に誘われたが、実際まだ気心が知れた仲ではなかった。お酒を飲んでもまだ酔えないし、ご飯もあまりのどを通らなかったのが実情だったと述べられていました。

自立生活に興味を持ちはじめた頃、世の中でコロナが蔓延し、外出や施設の生活が一変して、もどかしさが続いた。こんな時期であったが、施設の相談員に自立生活の相談をしたら、意外と協力的だった。自分の中では、否定されると強く思っていた。

相談員の協力を得て、一人暮らしの方向へ一気に舵が進み始めた。そして、元々住んでいた実家にて念願の一人暮らし始まったとのこと。その後、施設の生活から一人暮らしに移行してからの変化について述べられていた。実際には色々と決められていた事から、すべて自分で管理していくという事になり、改めて驚くことばかりであった。特に、冬の電気代の高さに目が飛び出る思いであった。

私が一人暮らしを始める際も同じような事があつたことを思い出した。

一人暮らしを始めたことで演劇を始めたり、地域のイベントに参加したりすることができた。そして昔からの友人とカラオケや外食をすることができた。今後は、自分が今の生活にたどり着いたようにこれから一人暮らしを考えている人のサポートができればと思っているそうです。そして、アメリカで本場のNBAを見てみたいと語っていました。

井上さんの話の終了後、質疑応答となりました。

糟谷先生や参加者の様々な意見があり、20数年ぶりに実家にての一人暮らしにおいて何か問題はあつたか?現在の介助時間数、介助制度、NASVA(自動車事故対策機構)等や「今後、自分の住んでいる地域で介助者を探していくかなければいけない」の話がありました。いろいろな話の中で出た「楽しむ」「頼る」が大事という発言がものすごく心に残りました。

新聞記事紹介

全国頸髄損傷者連絡会事務局

女性障害者を性被害から守る

女性であり、障害者である。そんな複合的な「困難」を抱える女性障害者の性暴力被害を考える学習会（D.P.女性障害者ネットワーク主催）が、京都市内であった。

弱い立場にある女性障害者は性被害を受けやすく、支援にも課題が多い。高齢の当事者や支援者が、障害者の性被害に求められる支援の仕方を考えた。

井上 聖子

京で学習会

Our Voices

女性障害者の性被害をテーマに開かれた学習会（京都市上京区・同志社大）

女性障害者には障害者が、特に心の弱い女性障害者があるケースが少なくない。特に心の弱い女性障害者は声を上げづらい。被験者は施設や職場などで性暴力され、性を持つ存在として認識されないことも関係している。

被験者の総合的な力を担うのが各都道府県の「システム支援セミナー」だ。受け付けが電話のみなど、多くの地域で障害者がアクセスしやすい問題がある。人間や資金に課題を抱える現状も多く、身体や知的、精神といった障害者の特性に応じた対応は手探りで行われている。

京都SARAで性暴力被害者の支援を始めた香田さん（左）と村田さん（右）

支援員に当事者「相談ハードル下げたい」

性を考える

村田さんは41歳の時に脳梗塞があり、車いすで生活するようになった。学習会では、病院で男性看護師から入浴介助を受けた経験にも触れ、「障害者が性を持たない存在として扱われる」と感覚に感じた。（障害者を作つて障害女性の困難を知つてもいい、相談のハードル下げたい」と力を込めた。

脳性まひで運動障害と言語障害のある香田さんは、障害者にとって今の支援センターは相談しても向き合つてもらえない、信じられない場所」と指摘した。

「障害者の支援員がいる」というだけで「相談してみよう」と思う人が出てくる。金剛のセンターは障害当事者の支援員を置いてもらい、障害者支援員がいることを伝えていた」と訴えた。

京都SARAではこれまでも、「聴覚障害者に面談でアドバイスを活動の内容を報告した。村田さんは私たちは積極的に他の支援員をして、障害者特

望まぬ異性介助「虐待」

学習会では、病院や施設などで障害者本人の意思に反して異性が入浴や排せつなどの介助を行う「望まない異性介助」も取り上げられた。

脳性まひがある佛教大学院生の森本京華さん（24）は、20歳で初めてヘルパーを利用するまでの経験を振り返った。なかなか条件に合うヘルパーが見つからず、相談員から提案されたのが「女性」という条件を外すことだったという。

当時は異性介助という言葉を

知らない、後に本でさまざまな課題を知った。「あの時は男か女か異性介助のリスクを知り、一人の女性として自分の意見を持つことが大事だ」と力を込めた。

国は異性介助を「心理的虐待」に分類している。筋ジスト病棟の未来を考えるプロジェクトのメンバー岡山裕美さん（44）は、「入浴介助に初めて男性が来た時は泣いた」「男性でも良いと納得しないと心が保てない」といった当事者の声を紹介。「望まない異性介助は性的な侵害。より強い語感の『性的虐待』として認識されるべき」と訴えた。

京都新聞 2024年4月20日（土）発行の記事を転載

自動車事故による重度脊髄損傷者のリハビリ機会の確保

～全国3病院でモデル事業開始～

全国頸髄損傷者連絡会 関根 彩香

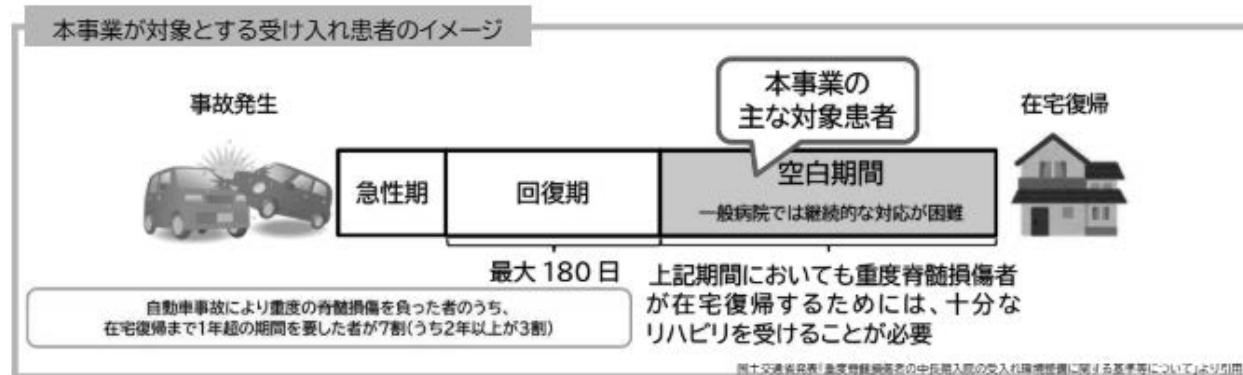
独立行政法人自動車事故対策機構（ナスバ）は、自動車事故による重度脊髄損傷者の継続的なリハビリ機会を確保することを目的とした専用病床の設置・運営に向けて、令和6年3月26日より全国の3病院にてモデル事業を開始し、各病院における治療・看護・リハビリの成果や課題を検証していきます。

■事業背景

自動車事故による重度の脊髄損傷者が、急性期から回復期までの病院における治療により機能改善が図られた場合であっても、病院退院後、その改善効果を維持し、さらなる改善につなげていくためには、継続的なリハビリを実施していくことが必要不可欠とされています。しかしながら、現状として、回復期を経過した後の維持期・慢性期において十分なリハビリテーションを受けることができる病院や施設等は少なく、結果的に転院を繰り返さざるを得ない場合が多いと自動車事故被害者やその家族からの声があがっています。

■事業概要

上記に対応するため、自動車事故による重度脊髄損傷者の方を対象として、急性期、回復期で十分なリハビリテーションの機会が得られなかつた方で、機能障害を残したまま暮らしているが、ADL（日常生活動作）を改善したい方やリハビリテーションを中断すると再び機能が損なわれてしまう方に対して、十分にリハビリテーションを受ける機会を確保するための専用病床の設置・運営を試行的に取り組むとともに、各病院における治療・看護・リハビリの提供の成果や課題を検証し、将来においてよりよい環境整備を目指します。



■事業手法

一般病院の一部病床を使用して、手厚い治療・看護・リハビリテーションを一体的に提供し、概ね2年間を上限とした入院期間を設定することで集中的にリハビリテーションを行う環境を整備・提供します。なお、治療等については、受託病院に蓄積された知見や手技を駆使し、入院患者の残存機能を最大限活用するとともに、在宅環境におけるADL向上や在宅復帰等患者ごとの目標に応じて、積極的なリハビリテーションを提供する機会を確保します。

■対象となる方

自動車事故により脊髄を損傷し、急性期病院による治療が完了している等、リハビリテーションによる治療が可能な状態であって、日常生活自立度が脊髄障害自立度評価法（Spinal Cord Independence Measure Version III : SCIM-III。以下「SCIM」という。）による点数で20点以下※であり、治療及び常時の介護が必要である方。

※ SCIM の 20 点以下というのは、個人差があるものの、概ね脊髄を損傷し生活全般において全介助が必要な方が該当します。なお、SCIM による評価につきましては、専門家の判断が必要であるため、各病院にお尋ねください。

■受託病院の紹介

名称	神奈川リハビリテーション病院	愛仁会リハビリテーション病院	聖マリアヘルスケアセンター
所在	神奈川県 厚木市七沢 516 番地 <最寄り公共交通機関> バス停「神奈川リハビリ」下車1分	大阪府 高槻市白梅町 5-7 <最寄り公共交通機関> ・JR 高槻駅より徒歩7分 ・阪急高槻市駅より徒歩 12 分	福岡県 久留米市津福本 448-5 <最寄り公共交通機関> 聖マリア病院前駅より徒歩1分
病院外観			
病院HPのQR			

■お問い合わせ先

事業全般についてのお問い合わせ

独立行政法人自動車事故対策機構（ナスバ）本部 大中田（おおなかだ）・関口 03-5608-7640

入院のご検討や病院についてのお問い合わせ

神奈川リハビリテーション病院 ナスバ事業担当 046-249-2220

愛仁会リハビリテーション病院 地域医療部 ナスバ事業担当 072-683-0206

聖マリアヘルスケアセンター 地域医療介護連携室 社会福祉士 小村 0942-35-5522

お役立ち！？

(非常時に備えたポータブル電源)

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

最近、各地で色々な災害が発生しています。私たち頸髄損傷者は災害弱者になりがちです。移乗用リフトや電動ベッド・エアマット等、色々な機器や設備を利用します。その時には電源が必要な物が多くあります。今回は、ポータブル電源を集めてみました。

◎Anker 521 Portable Power Station



◎Jackery ポータブル電源 240 New



価格：29,900円（税込み）公式オンラインストア

- ・バッテリー容量：256Wh・重さ：約3.7kg
- ・サイズ：約W21.6 x D14.4 x H21.1cm
- ・AC出力（定格/瞬間最大）：300W(50/60Hz) / 450W
- ・出力ポート構成：AC x 2, USB-C x 1, USB-A x 2 シガーソケット x 1
- ・本体充電方法：AC アダプタ（65W）/ USB 充電器（60W）/ ソーラーパネル（65W）（別売り）/ 車のシガーソケット（65W）

アンカー・ジャパン株式会社

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-101

ワテラスタワー9階

メール：support@anker.com

HP：<https://www.ankerjapan.com/>

価格：32,800円（税込み）公式オンラインストア

- ・バッテリー容量：256Wh・重さ：約3.6kg
- ・サイズ：約W23.1 x D15.3 x H16.8cm
- ・AC出力（定格/瞬間最大）：300W(50/60Hz) / 600W
- ・出力ポート構成：AC x 1, USB-C x 2, USB-A x 1 シガーソケット x 1
- ・本体充電方法：AC アダプタ / USB-C / ソーラーパネル（別売り）

株式会社Jackery Japan

〒104-0053 東京都中央区晴海1丁目8番10号ト

リトンスクエアX棟3階

電話：050-3198-9007

メール：jackery.jp@jackery.com

HP：<https://www.jackery.jp/>

上記の物はとりあえず参考としてピックアップしてみました。中にはもっと容量があるものや使い勝手がよい物があるかもしれません。自分の仕様に合ったものをお探し下さい。また、今回簡易発電機は燃料等のあつかいがあるので載せませんでした。ホンダ発動機やヤマハなどが扱っています。興味がある方は各自お調べください。

人工呼吸器等の医療機器をお使いの方は、使用している機器のメーカーにお問い合わせください。
各社対応マニュアルがあります。自己流などの電源管理はやめましょう。

報道・情報ピックアップ

共同通信 5/7(火) 12:16 配信

電動車いす、書類で安全確認 ピーチ、社内規定見直し

格安航空会社ピーチ・アビエーションで、電動車いすの電池が目視できないことを理由に女性が搭乗できなかった問題で、ピーチが書類などで安全が確認できれば機内に預け入れできるよう社内規定を変更したことが7日、同社への取材で分かった。

ピーチによると、電池は原則目視で確認するが、目視が難しい場合、電動車いすの取扱説明書などを確認して安全に輸送可能と判断できたら、機内で預け入れができるようにした。ピーチは「障害者への合理的配慮の観点や国土交通省の見解などを受けて規定を見直した」とコメントした。

女性は那覇空港から台湾へ向かう便の搭乗口で車いすの電池がカバーで覆われ目視できず、搭乗できなかった。

福祉新聞 6/2(日) 13:30 配信

「場所ではなく人の支援へ」在宅避難も防災計画に（内閣府）

内閣府はこのほど、大規模災害時の被災者支援に関連し、在宅避難する人や自家用車で車中泊する人も防災計画に位置付けるよう自治体に求める方針を明らかにした。今後の災害において避難所に入れない人が多数発生すると見込み、避難所という「場所」ではなく「人」に着目した支援に転換する。認知症高齢者や障害者ら災害弱者とされる人への支援強化に向けて一步踏み出す。

・車中泊の位置付けも

年内に自治体向けに指針を示す。車中泊の駐車スペースを避難所と位置付けること、DWAT（災害派遣福祉チーム）が在宅避難者を支えることについては、法制度上の対応を検討する。5月20日、「避難生活の環境変化に対応した支援の実施に関する検討会」（座長＝阪本真由美・兵庫県立大大学院教授）の報告書案に盛り込んだ。6月中に正式にまとめる。認知症や知的障害、発達障害などにより環境の変化に弱い人は体育館や公民館といった避難所になじめず、家族の運転する自家用車や被災した自宅で避難生活を送る例がある。避難生活の身体的・精神的な負担などが原因の「災害関連死」は自宅で発生する例が多く、在宅避難への支援が乏しいことはかねて問題視されていた。

・共通の「調査票」作成

避難所以外で避難生活を送る人を自治体が把握するのは困難なため、内閣府は日ごろから高齢者や障害者とつながりのある社会福祉協議会、福祉事業者などと訓練するよう呼び掛ける。こうした関係機関が被災者と同じことを重複して質問しないよう、共通して使える調査票のひな型も新たに作った。車中泊については、あらかじめ駐車スペースを決めておき、災害時に誘導するよう自治体に求める。

・3・11踏まえ努力義務

2013年6月に成立した改正災害対策基本法は、やむを得ない事情により避難所に滞在できない被災者にも生活物資を配ったり保健医療サービスを提供したりする努力義務を自治体に課した。11年3月11日発生の東日本大震災で車中泊や在宅避難が多発したことを踏まえた改正だが、そうした取り組みを可能にするノウハウや人的な体制が整っていないことが今回、検討会が実施した調査で分かった。新型コロナ下での豪雨災害で避難所の密を避ける必要に迫られたことからも、内閣府は避難所以外での避難生活の環境を整えることが不可欠と判断した。

支部ニュース

栃木頸髄損傷者連絡会

例年通り秋に合同交流会が行われる予定です。今まで参加したことのない方も、ぜひご参加ください。栃木独自でのイベントも開催できればと考えています。

東京頸髄損傷者連絡会

今年も国リハで行われる、リハ並木祭に出展します。10月19日(土)です。また、秋ごろにイベント(対面)を考えています。何か良い案があればご連絡いただけますとありがとうございます。

愛知頸髄損傷者連絡会

8月に予定していたトヨタ博物館の見学とランチを連日の猛暑続きで9月29日に延期して実施します。また、10月20日に秋のレクリエーションとして徳川園・徳川美術館で交流会を行います。

頸髄損傷者連絡会・岐阜

対面での支部総会を開催しました。岐阜支部として数年ぶりにBBQ懇親会を10月に開催します、11月も対面での忘年会を開催予定しています。

京都頸髄損傷者連絡会

京都支部では昨年11月お亡くなりになった小森猛氏のメモリアルパーティーを11月開催します。詳細は京都支部HPでご案内いたします。

大阪頸髄損傷者連絡会

9月は総合医療センターでピアサポートを予定していて、あと3府県合同交流会が今回は大阪が担当で行います。10月には地域交流会も予定しております。これからも皆で楽しんでいきます！

兵庫頸髄損傷者連絡会

9月15日(日)に、地域交流会を長田区文化センターで行います。10月20日(日)には、大バーベキューフェスを行います。10月26日(土)に、パラリンピック競技「ボッチャ」を行います。

香川頸髄損傷者連絡会

10月に一泊旅行を計画しています。コロナなどもあり5年ぶりの旅行なので楽しみです。

愛媛頸髄損傷者連絡会

6月8・9日の愛媛県松山市で全国総会へは多くの参加ありがとうございました。愛媛へお越しの際は気軽にお問い合わせ下さい。11月10日は四国頸損の集いが開催されます。ご参加下さい。

徳島頸髄損傷者連絡会

6/30に例会を開催。4+1人参加で近況報告、褥瘡等体調不良への対応等を話し合う。10月に例会。久しぶりの再会に期待したい。11月の四国頸損の集い。ボッチャをしたいが会場の確保に苦慮…

九州頸髄損傷者連絡会

国立別府重度センターでは急性期の方だけでなく、一度入所訓練を受けられた方でも身体機能レベルが低下された方など、再度機能回復訓練が受けられるようになりました。問合せは神田まで。

支部ニュース

全国頸髄損傷者連絡会、各支部からの近況報告や今後の予定を告知していきます。

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(2024年11月現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1323 兵庫県三田市あかしあ台5丁目32-1 ウッディ殿ビル 402B 特定非営利活動法人ぽしふる内

TEL : 079-555-6022 e-mail : jagoffice7@gmail.com <https://k-son.net/>

【郵便振替】口座番号：00110-0-62671 口座名義：全国頸髄損傷者連絡会

※各支部、地区窓口に連絡がつかない場合は本部にお問い合わせください。

※電話でのお問い合わせ等は、平日10時～17時の間に願いいたします。

福島地区窓口「福島頸損友の会」

〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前146-1（相山方）

TEL : 080-1656-1727 e-mail : hidamari.s@gmail.com <http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1丁目10番6号 とちぎ福祉プラザ内(2F)

TEL&FAX : 028-623-0825 e-mail : keison@plum.plala.or.jp <http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション205（鴨治方）

TEL : 090-8567-5150 e-mail : tokyokeisonn@gmail.com <http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html>

神奈川地区窓口

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台696-1 ライム106号室（星野方）

TEL&FAX : 042-777-5736 e-mail : h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

静岡地区窓口

〒426-0016 静岡県藤枝市郡1-3-27 NPO法人障害者生活支援センターおのころ島氣付

TEL : 054-641-7001 FAX : 054-641-7181 e-mail : matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町2-28 ノーブル千賀1F AJU自立生活情報センター内

TEL : 052-841-6677 FAX : 052-841-6622 e-mail : kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4-1-7 ソフトピアジャパン702 バーチャルメディア工房内

TEL&FAX : 0584-77-0533 e-mail : kson_g@yahoo.co.jp <http://g-kson.net/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町4番地 九条住宅B棟313（村田方）

TEL : 090-8886-9377 e-mail : keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターある内

TEL&FAX : 06-6355-0114 e-mail : info@okeison.com <http://okeison.com>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒669-1323

兵庫県三田市あかしあ台5丁目32番地の1 ウッディ殿ビル402B 特定非営利活動法人ぽしふる内

TEL : 079-555-6229 FAX : 079-553-6401 e-mail : hkeison@yahoo.co.jp <http://hkeison.net/>

香川頸髄損傷者連絡会

〒768-0104 香川県三豊市山本町神田1223（長谷川方）

TEL : 0875-63-3281 e-mail : tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田336-2（山下方）

TEL : 0896-25-1290 e-mail : ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会

〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻28番地（江川方）

TEL : 0884-21-1604 e-mail : awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会

〒874-0919 大分県別府市石垣東3丁目3番16号 別府J1階 NPO法人自立支援センターおおいた内

TEL : 0977-27-5508 FAX : 0977-24-4924 e-mail : kkr@jp700.com



【大阪支部より】四天王寺の南西、天王寺公園の北東にそびえる「茶臼山」は、大坂冬の陣では一帯が徳川家康の本陣となり、大坂夏の陣では真田幸村の本陣として「茶臼山の戦い」の舞台となったことでよく知られています。また、茶臼山には、5世紀ごろの前方後円形古墳という説と、和氣清麻呂（わけのきよまろ）が上町台地を横断する堀川として、大和川や河内湖の排水と水運のために掘った名残が河底池（かわぞこいけ）であり、その際、掘り出した土を積み上げたものが茶臼山だという説があります。

天王寺に立ち寄られた時には少し足を延ばして歴史を感じてみてください。

編集部通信

●頸損者に役立つ情報、編集企画、また機関誌へのご意見を募集しております

編集部連絡先（担当：宮野） E-mail : h-miyano@st.rim.or.jp

全国頸損連絡会・本部事務局 E-mail : jagoffice7@gmail.com

TEL : 079-555-6022

●当会では、善意の活動支援寄付もお願いしております

郵便振替口座番号：00110-0-62671 口座名義：全国頸髄損傷者連絡会

■機関誌広告募集 年3回発行（4月・8月・12月）

機関誌「頸損」は、全国頸損会員（約500名）及び関係する方々に購読していただいている。

当会では、広告掲載して活動支援をしていただける、福祉・医療機器業者の方を募集しております。

当会HP <http://k-son.net/> をご参照いただき、是非、広告掲載をご検討いただけたら幸いです。

[広告掲載要綱]

◎料金：1ページ・2万円／半ページ・1万円（※1年以上継続契約の場合は半額割引）

◎問い合わせは上記の編集部連絡先、または本部事務局までお願ひいたします。

編集後記

愛媛の総会も終わり、ホッとしていたところ、最近の猛暑でダウンしかけています。

気象庁によると、全国の平均気温は、平年と比べて2.16度高くなり、1898年に統計を取り始めてから126年間で最も暑い7月となりました。記録を更新するのは2023年に続いて2年連続です。まだまだ、続くと思われます。また、パリではオリンピックが始まりました。連日の暑さでなかなか外出ができないので、テレビにかじりついています。オリンピックが終わると、次はパラリンピックです。特に、ボッチャには注目です。この冊子ができる頃には、結果がでていると思いますが、皆精一杯の力が出せ、悔いの残らないように楽しめれば良いなと期待しています。楽しもう、日本代表！！

(S・K)

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可（毎月六回一・六の日発行）
二〇二四年八月三十一日発行 SSKA頸損 増刊通巻第一二三五八号

編集人

東京都練馬区石神井町
七一一一二一〇五

全国頸髄損傷者連絡会

発行人

東京都世田谷区祖師谷三一一十七
ヴエルドウーラ祖師谷一〇二号室
障害者団体定期刊行物協会

全国頸髄損傷者連絡会

〒669-1323

兵庫県三田市あかしあ台5丁目32番地の1
ウッディ殿ビル 402B 特定非営利活動法人ぽしづる内
TEL: 079-555-6022 Email: jaqoffice7@gmail.com

額価 250円

無断転載・複製を禁じます